

市民公開シンポジウム

「健康に及ぼす室内環境のリスク評価とリスクコミュニケーション」の開催

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会
共 催 日本公衆衛生学会
2. 日 時 平成20年11月7日（金） 14:00-16:00
3. 場 所 福岡国際会議場 会議室 411+412
(福岡市博多区石城町2番1号 tel:092-262-4111)
4. 次 第

開催趣旨

シックハウス対策のための建築基準法が改正され、新築建物に関しては機械換気設備の設置が義務付けられ、ホルムアルデヒドを発生する建材の使用については面積の制限が規定された。シックハウス問題は一見解決したかのような趣があるが、未だに問題を抱えている建物は多い。また、アレルギー疾患は増加の傾向を示しているが、原因の一つはハウスダストであることも判明している。ハウスダストは室内の温度、湿度の環境や換気設備の性能によって大きく左右されることが推察される。更に、室内の温度環境が健康に影響を及ぼすことは明らかであるが、近年は浴室における脳卒中の発症やそれが原因となって引き起こされる溺死は大きな社会的問題となっている。

本シンポジウムでは、健康に及ぼす室内環境のリスク評価とリスクコミュニケーションと題して、室内の環境がシックハウス症候群、アレルギー疾患、感染症、脳卒中などの疾患に対してどの程度のリスクを孕むのか、またそれを回避するためには、どのような形で情報伝達が必要かについて専門の先生方からの報告をいただくこととする。現代社会に住む我々は、多くの環境リスクに曝されている。特に石油化学の発展以後多くの化学物質にとり囲まれ、カネミ油症事件、ダイオキシン類、いわゆる環境ホルモンといった問題が次々と起こり、健康リスクに対する国民の不安が高まっている。これらの問題は、従来の安全か危険かという二分法ではなく、「リスク」という一種の確率の概念で捉えられるようになってきているが、一般国民の理解はまだ十分とは言えない。リスクに関する正しい知識を共有し、リスクを削減していくための手段としてのリスクコミュニケーションに関しても同様である。本シンポジウムでは、リスク社会、化学物質、放射線の健康リスクをとりあげ、どのようにリスクコミュニケーションを考えて行ったらいいのかを、主に衛生学の専門家、行政、市民と意見を交わすことを目的としている。これらのシ

ンポジウムを通して得られた情報や資料を基にして、日本学術会議の対外報告に資する。

座長 吉野 博（東北大学）、吉村健清（福岡県保険環境研究所）

パネリスト：

「室内の環境と健康 過去・現在・未来」

吉野 博（既出）

「諸外国における室内空気質規制に関する研究」

池田 耕一（国立保健医療科学院建築衛生部研究員（前部長））

「冬期の高齢者入浴とヒートショック」

梶原 裕（九州大学大学院芸術工学研究院教授）

「人々はリスクをどう考えるのか？」

土田 昭司（関西大学社会学部教授）

「健康的な室内環境と住まい方」

田中 正敏（福島学院大学教授）

【お問合せ先】

第 67 回 日本公衆衛生学会総会 運営事務局
（株）ICS コンベンションデザイン 九州支局
Tel:092-751-3244 Fax:092-751-3250
E-mail:jsph67@ics-inc.co.jp

※ 事前申込は必要ありません。